

V 心意気あふれる多彩な民間建築：船場周辺

大阪府中央区に位置し、北は中之島の土佐堀川、南は長堀通り、東・西は高速道路に囲まれる約 230 ヘクタールの区域が船場である。

船場は慶長 3 年（1598 年）に豊臣秀吉による大阪城三の丸建設に伴って建設された新たな市街地で、大阪夏の陣で焼け野原となり、江戸時代には、松平忠明により周辺の堀川整備などとともに復興され、幕府の上方支配の拠点化政策、全国諸藩の蔵屋敷の立地などにより、天下の台所として発展を遂げた。

その後、明治維新により、大阪の金融界は大打撃をうけ、経済は停滞を余儀なくされるが、早くからの工業化や築港整備による貿易拠点づくり、郊外鉄道など交通の近代化や都市計画の導入などにより、大大阪時代と言われる繁栄期を迎え、この時代には我が国を代表する近代建築も数多く造られた。

40 間四方の格子状の街区構造の東西方向に太閤下水が貫通する構成をもっているが、戦災復興の際に再開発エリアから除外されたこともあり、基本構造はいまなお近世のままの構造を残し、使い続けられている。これほどまでに古く、かつ経済活動としても未だ現役で活躍する市街地は世界の中でも珍しい。

長きに渡り現役市街地として活躍しつづける町衆のまち船場は様々な時代を象徴する建築物が数多く残されている。経済の中心地・証券のまち北浜の街角の象徴でありつづける大阪証券取引所ビル（1935 年：長谷部竹腰建築設計事務所）や、時計店として建設され、時計台がポイントとなっている生駒ビルディング（1930 年：宗建築事務所）などは船場のランドマークとして今も愛されている。

船場の街区構成やまちの生業をいまに伝える建築物も数多い。薬のまち道修町を象徴する武田道修町ビル（1928 年：片岡建築事務所 [松村重光]）、間口が狭く奥行きが深い街区を生かした船場ビルディング（1925 年：村上徹一）、典型的な近世船場の街割りに存在感あるファサードを生み出している原田産業株式会社大阪本社ビル（1928 年：小笠原建築事務所 [小笠原祥光]）、近代建築が建ち並ぶ堺筋界隈の新井ビル（1922 年：河合浩蔵）、青山ビル（1921 年：大林組）、伏見ビル（1923 年：長田岩次郎）、堺筋倶楽部（1931 年：川崎貯蓄銀行建築課）、格子状の船場街区の隅切を大胆に建物意匠のアクセントに取り込んだ旧本町ビルディング（1961 年：日建設計）、シンプルなシルエットに窓枠のシェイプが印象的な輸出繊維会館（1960 年：村野・森建築事務所 [村野藤吾]）など個性あふれる建築が船場というまちの多様性を実感させてくれる。

さらに昔の船場を思い起こすことのできる建築物も残っている。町家建築の小西家住

宅（1903年：設計不詳）、**北野家住宅**（1928年：設計者不詳）、**清水猛商店**（1924年：住友工作部〔小川安一郎〕）、当時は、船場のこいさん、いとはんが通う花嫁学校として利用された**芝川ビル**（1927年：澁谷五郎、本間乙彦）などは、生業と居住が一体化していた船場を思い起こさせてくれる。

船場に隣接する四ツ橋筋界限では、**長瀬産業株式会社大阪本社ビル**（1928年：設楽建築工務所〔設楽貞雄〕）のように旧館、新館と時代が異なる建築物をつないで一連の街並みを形成しているものがある。江戸堀には煉瓦の外壁と尖塔がシンボルの**日本基督教団大阪教会**（1922年：ヴォーリズ建築事務所〔ウィリアム・メレル・ヴォーリズ〕）が変わらぬ佇まいで立っている。時代とともに周囲のまちは変わってもまちのシンボルとして親しまれている。時代の積層として建築が建ち、それらがまちをつくるという歴史的市街地の原則を端的に表現している。

そして何よりも船場の驚くべき点として、こうした実にバラエティに富んだ建築物が、コンバージョン、リノベーションなど様々な工夫によって、いまでも現役で使われている点にあるだろう。なかには消防署をレストランにコンバージョンした**今橋ビルヂング**〔旧大阪市中央消防署今橋出張所〕（1925年：設計者不詳）のような変わり種まである。

近年は、こうした愛すべき船場の建築物の魅力を生かしたまちづくりも進んでいる。その発端は、船場の近代建築のオーナーたちがその価値を再認識し、活用していこうとする取り組みが連鎖的に広がっていったことであるのも、民のまち船場の遺伝子がいまでも健在であることを感じさせてくれる。

その流れのなかで、旧銀行を改築したオフィスビルのファサードを残してマンションとして建替えされたグランサンクタス淀屋橋（1918年：辰野片岡建築事務所、改築1929年：國枝博）といった再生事例も誕生している。

都心回帰の流れが進むなか、船場には住むまちとしての顔も見え始め、歴史文化の薫るまちでありつつ、これからもその多様さを広げていくはずだ。（**嘉名光市**）



図 中央部の堀川で囲まれているのが船場（東横堀川、土佐堀川、西横堀川、長堀川）
（出所 大阪パノラマ地図 和楽路屋）

江戸時代からの流れをくむ金融の中心地
株の街・北浜のランドマーク

19 大阪証券取引所ビル



旧 称：大阪証券ビル市場館
所在地：大阪市中央区北浜 1-8-16
建設年：1935年
構造・規模：SRC造6階、地下2階
設 計：長谷部竹腰建築事務所

保存建替：2004年
構造・規模：S造、SRC造24階、地下2階
設 計：三菱地所設計・日建設計設計
監理JV

1730年に開設された堂島米会所は、世界初の先物取引市場だったともいわれる。そんな経済の都・大坂（大阪）も、近世から近代への転換は容易では無かった。そこに大きく貢献したのが、近代的な経済機構の数々を整備した五代友厚。大阪証券取引所は彼の尽力で1878年に開設された。その後、1935年に鉄筋コンクリート造の建物を新築。現在の大阪証券取引所ビルは、交差点に面した円形のエントランスホールと列柱が印象的なその外観を継承し、超高層化したものだ。正面には五代の銅像が立ち、北浜の街並みと先覚者への敬意を表明している。（倉方俊輔）

船場で時計屋を営む商家の元本店ビル
時計台とオーナーの語りが街の名物

20 生駒ビルヂング

旧 称：生駒時計店
所在地：大阪市中央区平野町 2-2-12
建設年：1930年 改修 2002年
構造・規模：RC造5階、地下1階
設 計：宗建築事務所 改修：Y's 建築
設計室



1920～30年代に流行した「アール・デコ」は、機械的なものの持つ魅力を装飾に変えたスタイルだ。定規とコンパスで引いたような線の強調、ギザギザをはじめとした機械的な繰り返しの形、カクカクと幾何学化された彫刻、大理石などと並べることで対比されたキラキラした金属やガラスの輝き…これらすべての特徴が生駒ビルヂングにみられる。時計という当時、最高に精巧な機械を販売する店舗ビルだったと聞けば、それも納得。1930年の開業時の内装はそのままに、現在は新規事業の立ち上げなどに適したオフィスとして活用されている。ビルは今も時代の最先端を走り、屋上の時計は街を見守り続けている。（倉方俊輔）

船場の道修町は日本を代表する薬の街
大旦那・武田長兵衛の本社は、まさに船場の顔

21 武田道修町ビル



旧 称：武田長兵衛商店本店
所在地：大阪市中央区道修町 2-3-6
建設年：1928 年
構造・規模：RC 造 3 階、地下 1 階（後
年 5 階に増築）
設 計：片岡建築事務所（松室重光）

大阪の歴史都市・船場は町ごとの特徴が明確で、道修町は「くすりの町」として発展した。江戸時代には日本で流通する全ての薬が、まずここに集められ、現在も名だたる製薬会社が軒を並べる。武田薬品工業も、1781 年にここ道修町で薬種の仲買商をはじめ、1925 年に武田長兵衛商店を設立、その 3 年後にこの本店を完成させた。設計したのは大阪建築界の大御所・片岡安の設計事務所にいた松室重光。2013 年に耐震補強工事を終え、公益財団法人武田科学振興財団が移転した。同財団では貴重な医学関連の資料を収集した杏雨書屋（きょううしょおく）を運営、展示室は無料で一般公開されている。（高岡伸一）

外からではわからないパティオがある
ヨーロッパのプチホテルのよう

22 船場ビルディング



外からは想像できない内部が楽しい。住居を併設した鉄筋コンクリート造のビルとして、1925年の完成時には周囲の木造家屋の中にそびえていた。外から見ると比較的シンプルなデザインだが、中央の入り口をくぐれば、明るい中庭が目にと留まる。入り口から続く幅広い通路や、床に敷き詰められた木製ブロックは、中庭まで荷馬車を引き込むための工夫。問屋街として発展した船場の土地柄が反映されている。中庭を取り囲んだ開放的なつくりは、今では他にあまり例が無い。空間の魅力が個性的なオフィスやショップを数多く集めているのだろう。一つ一つのドアの向こうでは、今日も想像できないクリエーションが行われている。小さな街のような中庭だ。（倉方俊輔）

所在地：大阪市中央区淡路町 2-5-8
建設年：1925年
構造・規模：RC造4階、地下1階
設計：村上徹一

間口の狭い典型的な船場の敷地に建つ
知る人ぞ知る船場の名近代建築

23 原田産業株式会社大阪本社ビル



船場の近代建築が注目されて久しいが、まだ知られざる名建築が存在する。人気のショップが多く入居する大阪農林会館のそばに建つ、1928年に建てられた原田産業株式会社大阪本社ビルもそのひとつ。船場に典型的な間口の狭い敷地に建つ2階建ての洋館は小ぶりだが、古典的な左右対称をわざと崩した重厚なエントランスが目を引き、バルコニーをもつ大きなガラスの開口部の裏には、吹抜のホールと優雅な階段が設えられている。1923年創立の歴史をもつ原田産業が、ずっと大切に本社として使い続けてきた。小笠原祥光は、御堂筋の拡幅に合わせて1931年に建てられた、伊藤萬商店で知られる建築家。
(高岡伸一)

所在地：大阪市中央区南船場2-10-14
建設年：1928年
構造・規模：RC造2階
設計：小笠原建築事務所（小笠原祥光）

大阪を代表するスイーツ店
「五感」の本店として親しまれている元銀行建築

24 新井ビル



旧 称：報徳銀行大阪支店
所在地：大阪市中央区今橋 2-1-1
建設年：1922 年
構造・規模：RC 造 4 階、地下 1 階
設 計：河合建築事務所（河合浩蔵）

北浜は大阪の金融街として栄えたエリアで、新井ビルも報徳銀行の大阪支店として建てられた。保守的なデザインの多い当時の銀行建築にあって、このビルは新しいヨーロッパの潮流が取り入れられ、装飾を幾何学的に簡略化したモダンなデザインとなっている。1934 年に新井家がビルを取得して新井証券を創業、戦後にテナントビルとなって現在に至る。大阪発のスイーツとして人気の「五感」が 2005 年に本館を構え、元銀行の営業室であった吹抜空間をうまく活かした店舗がオープン、連日行列ができるほどの人気ぶりだ。（高岡伸一）